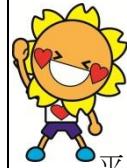


[キャッチフレーズ]  笑顔・花・命	奄美市立大川小・中学校 <h1>学校だより大川</h1>	[校訓]  勉学・協力・根性 <small>平成 31 年 5 月 21 日発行</small>
---	--	--

平成から令和へ
～ボーダーレスは加速する～

校長 前田浩之

時代が変わる日を、私は京都で迎えました。日本の歴史の転換点が詰まった古都で、新しい時代がどのように動いていくのかを感じることができたら、学校経営にも生かせるのではないかとも期待していました。

まずは、交通機関共通の IC カードが機能していることに驚きました。地下鉄・JR・バス、ほとんど全ての交通機関を 1 枚の IC カードで利用できます。カードにチャージさえしておけば切符を買う必要がありません。京都駅の構内では、あふれかえるほどの人でも切符売り場に列はありませんでした。もちろん改札の必要も無く、よく言われる IT 技術の進歩でなくなっていく職業の一つを、そこに見ました。鹿児島市でも IC カードが使える交通機関がありますが、まだ共通化がなされていません。

次に外国人の割合の高さです。観光客だけではなく、飲食店や土産物売り場でも多くの外国人が働いています。彼らは流ちょうに日本語を話し、千本鳥居で有名な伏見稻荷神社参道では、外国人が作務衣を着て、日本茶の製法や飲み方、特徴について日本語で説明していました。外国人が日本茶について、日本人に説明している。一昔前なら不思議な光景かもしれません。ただ気になったことが一つありました。観光客であふれかえる京都の台所「錦市場」。その観光客の約半数は外国人です。身動きができない状態を見た魚屋の従業員が、ぼそとつぶやいたのです。「もう鎖国したいわ。」受け入れられる限界を超えてると言いたいのでしょう。奄美にも多くの外国人が訪れています。もし世界自然遺産登録がなされれば、さらにその数は増えています。どのように対応していくべきか、私たち奄美に住む人間も考えなくてはいけません。

京都から帰ってきて二週間後、中学生を引率し修学旅行で太宰府や長崎を訪れました。京都ほどではないにしろ、観光目的の外国人が多く、素朴な本校生徒たちが必要以上に緊張しているのがわかりました。令和の時代はボーダーレス（国境が無い状態）が加速するでしょう。この時代を生きていく子どもたちに、外国人とも良好なコミュニケーションをとれる能力や態度を身につけさせることは必須項目だと思います。

私は、日本に来る外国人にはできるだけ親切にしようと心がけています。それは私が若い頃（28歳～31歳）、妻と幼い娘 2 人（3歳と 0 歳）を連れてローマ日本人学校に赴任したとき、なれない海外生活を支えてくれたのは日本人ではなく、そこに住んでいるイタリア人の家主や同僚、友人たちだったからです。髪や目の色、話す言葉は違っても、そんなことは問題ではない、結局は人間性だと感じた 3 年間の体験でした。

修学旅行で訪れた福岡市防災センターでの体験研修、生徒代表がお礼の挨拶をし、バスに乗り込もうとしているところに駆け寄ってきて一言。「素晴らしい生徒さんたちですね。今日、鹿児島からの中学生をたくさん受け入れましたが、ダントツでナンバーワンです。」本校の生徒には、人間性は育っているようです。

新しい時代に必要な能力、人間として大切な素養。バランスを取りながら、新しい時代を生き抜く力を子どもたちに身につけさせたいと思うところです。

4月後半～子どもたちの様子

【小学校一日遠足】



【交通安全教室】



【小学校めぐみの園訪問】



【シマ唄・シマグチ学習】



【中学校生徒総会】



【中学校修学旅行】



【中学校宿泊学習】



5月後半～6月前半 主な行事予定

5/24(金)	不審者対応訓練
5/26(日)	PTA 奉仕作業
5/28(火)	5.6 年修学旅行（～30 日）
5/29(水)	中3 第1回実力テスト（～30 日）
5/31(金)	中2、3 高校説明会 複式5校集合学習（於：知根小）
6/8(土)	土曜授業（シマ唄・シマグチ）
6/11(火)	中体連地区総体（ソフトテニス～12 日）
6/18(日)	PTA 球技大会
6/19(水)	中体連地区総体（陸上競技）